香美市立美術館 アートの窓

林アメリーのパッチワーク&キルトは、今、全国のキルターから注目を集めています。今回、林アメリーの作品を、西日本初の個展として紹介します。

フランス生まれの林アメリーは、1950年からクリスチャン・ディオール、1959年からはギ・ラロッシュのオートクチュールのアトリエに所属し、才能を発揮した人で、1963年にギ・ラロッシュの日本橋三越アトリエ責任者として来日し、本場オートクチュールの技術を指導し、日本にオートクチュールを確立させる先駆者となりました。

1970年、結婚後に退社し、東京にて個人アトリエ活動を行い、その頃から、パッチワークやキルト等の作品づくりが始まります。長くパリのファッション界で磨いた感性と針仕事の技術を持つ彼女が、日本の伝統美（着物や古布など）に出逢い、既存のパッチワークやキルトにない新たな布の芸術作品を生み出したのです。彼女独特の美意識と、変化に富んだ構成が、東洋と西洋を融合させた自己表現として、高く評価されています。

写真の「太陽がいっぱい」（1989年）の作品は、色の組み合わせを中心に考え、捨てずに集めておいた小さなはぎれと家族の古着の生地などを組み合わせて構成しています。

今年1月に東京ドームで開催された『東京国際キルトフェスティバル－布と針と糸の祭典2010－』では、代表作家の1人として特別展示スペースに出品しています。

高知をはじめ、四国のキルターの方々はもとより、より多くの皆さまに布のおりなす芸術「アメリー・ワールド」を楽しんでいただきたいと思います。

ご来館をお待ちいたしております。

（館長・北　泰子）

林アメリーのパッチワーク&キルト展

5月29日(土) ～7月11日(日)

▲太陽がいっぱい　林アメリー

■オープニングセレモニー
5月29日(土) 14時～
■林アメリー　ギャラリートーク
5月29日(土) 14時30分～
■館長による作品解説
6月6日(日) ・7月11日(日)

吉井勇記念館だより

第7回吉井勇顕彰短歌大会
（3月20日・猪野々集会所）

【受賞作品・一般の部】

吉井勇大賞
白髪山は雪に光りて遥かなり　仰ぎあふぎて大根を干す　香美市　公文正子

吉井勇賞
己が歳も忘れし夫が話し出す二十年前の子の甲子園　芸西村　竹﨑香澄

佳作
研ぎ始め「チラッ」と覗く寒暖計真水を垂らし砥石に向ふ　南国市　山﨑信秀
これぞこれこの胸乳こそ「われ」なれとみどり児顔をふりふりもぐる　高松市　嶋本和子
大鯛の生けづくり終へ調理場の灯り落せば月光(かげ)の射す　高知市　奥宮武男

玉井清弘賞
お年賀に紬着てゆくとう夫に樽を抱くごと腰紐締める　高松市　中村郁子

楠瀬兵五郎賞
年賀売る人ははがきの木を知らず寒さも言はず立つ局の前　香美市　都築初代

【受賞作品・学生の部】

吉井勇大賞
オペ終わりますいがさめて目を開く　家族もいない静かな病室　鏡野中学校2年　門田　悟

吉井勇賞
車から見える棚田は田植え時空へと水をたたえて青い　長崎県長崎工業高校3年　福田愛弓

佳作
うれしいよ素直になれたその日から私にとって永遠でした　香北中学校3年　前田沙矢香
ゆずしぼりゆずをしぼるとしるかぶる　あとでさわるとかみべとべとだ　楠目小学校6年　野村凌我
線引けば部屋が変現してパソコンであこがれの家を創る　長崎県長崎工業高校1年　村松沙耶

玉井清弘賞
父が支え乗せてくれた竹馬で歩いて僕は十五歳になる　長崎県長崎工業高校1年　林田太一

楠瀬兵五郎賞
溶接の音と臭いが僕の耳鼻に残って工業を知る　長崎県長崎工業高校2年　有村貴史

図書館だより
市立図書館

ご利用案内

春の読書週間がやってきました。市民の皆さまに読書の楽しさを知ってほしいと思います。市立図書館（本館・香北分館・物部分館）の利用のご案内を致します。

☆初めて借りるとき
市内に居住または勤務、在学されている方はどなたでも借りることができます。利用カードは、その場で発行できます。3館共通の利用カードですのでどの館でも利用できます。また3館で共有している5万冊の蔵書をどの館からも利用いただけます。

☆返すとき
3館のどの館でも返却できます。

☆返却期限の延長
1回（2週間）だけ返却期限の延長ができます。電話でも可能です。

☆本を探すとき
資料検索用パソコン（OPAC）をご利用ください。インターネットを使って自宅からも検索できます。

☆予約サービス
お探しの本が貸し出し中の時は、予約ができます。

☆コピーサービス
図書館にある資料を著作権上許される範囲内でコピーできます。

☆レファレンスサービス
調査・研究に必要な資料や情報を紹介し、本を探すお手伝いをします。電話による質問もお受けします。

☆相互貸借サービス
お探しの本が図書館にない場合、県内の図書館から借り受け、貸し出しをします。

ご来館をお待ちしています。

こどもの読書週間・2010
4/23～5/12

おすすめの1冊

「かかしのじいさん」
（文・深山さくら／絵・黒井　健）

忘れられつつある良き日の風景。なつかしい田んぼの中のかかし。かかしじいさんの仕事は、すずめを追っぱらう事。すずめは稲の白い花や米のあかんぼうを食べにやってきます。やがて、すずめはじいさんを慕って、じいさんもすずめを待つようになります。ほんわりとあたたかい気持ちにさせてくれ、田んぼにいるかかしやすずめに会いにいきたくなる1冊です。

さーちゃん40歳（土佐山田町）

吉井勇作品紹介　龍馬編　その②

吉井勇の祖父友實は、龍馬と西郷の橋渡しや、寺田屋襲撃後の護衛も務めており、龍馬と深い関係があります。当館では「吉井家と龍馬」のコーナーを設けています。

3月号から、吉井勇が残した龍馬に関する11首の歌を紹介しています。

この石の
まへにたたずみ
土佐男(とさを)の子
龍馬思(も)ふほど
すがしきはなし

『京洛史蹟歌』（昭和19年2月　大雅堂）

解説
この石＝京都市河原町通の龍馬終焉の地に建つ標石。すがしき＝形容詞「すがし」の連体形。すがすがしい。さわやかで気持ちがよい。

【問い合わせ先】 市立吉井勇記念館 ☎58・2220